

「令和元年度 東北森林管理局保護林管理委員会  
朝日山地森林生態系保護地域部会」(R1. 5. 27)

# アコースティックモニタリング(※)で ニホンジカの生息動向に注視

## 令和元年度 朝日山地森林生態系保護地域部会

5月27日(月)山形市の山形県自治会館において、令和元年度の「東北森林管理局保護林管理委員会 朝日山地森林生態系保護地域部会」を開催致しました。

添谷計画課長より、近年山形県でニホンジカの日撃情報が多発していることを受け、今年度より生態系保護地域内のモニタリング調査にアコースティックモニタリング調査を加え、生息動向に注視していく考えであることが話されました。

昨年度の「東北森林管理局保護林管理委員会」の概要報告の後、菊池山形大学准教授を座長に選任し「様々な観点から朝日山地を未来永劫、次の世代の方々へ引き継ぐためにも、様々な議論をお願いしたい」と挨拶がありました。



添谷計画課長の挨拶

ックモニタリング調査を取り入れたいとしました。

また、報告事項ではニホンジカの日撃情報もさることながら、イノシシの日撃情報も増加傾向にあることや、先日起きた東大鳥川での溪流釣り客の死亡事故なども話題となりました。

今年度は、関東森林管理局からもオブザーバー参加があり、新潟県側の巡視報告もなされ、吊り橋の落橋があり登山道に注意喚起の看板等が必要ではないかとの補足説明もありました。

長時間に渡る会議でしたが、笠井所長の閉会の挨拶で終了となりました。

※アコースティックモニタリング:ニホンジカのモニタリング手法の1つで、雄ジカが発するハウル(咆哮)を集音器で録音し、個体数指標としてカウントする方法で、音による個体検出であるため、目視やカメラ撮影で得られない個体情報を把握することが出来る。



挨拶する菊池座長

議事に入り審議事項では、初めて行ったオオハンゴン草の除去作業、クマ剥ぎ対策の現地検討会について、PPバンドの使用に関しプラスチックゴミとの話題性も考え、今後の検討事項となりました。モニタリング調査結果等に関しては、県内でニホンジカ日撃情報が多発している中、朝日山地でアコースティックモニタリングの設置だけで良いのかとの質問もありましたが、センサーカメラの設置だけでは確認が取れず今後課題を残すため、今年度より新たな取り組みとしてアコースティ



会議風景

東北森林管理局  
朝日庄内森林生態系保全センター